

渡り鳥いつ帰る (1955)

メディア 映画
ジャンル ドラマ
製作国 日本
色彩 B&W
時間 129分
初公開日 1955/06/21
公開情報 東宝

【解説】

永井荷風の短編小説『にぎりめし』『春情鳩の街』『渡り鳥いつかへる』を、久保田万太郎が再構成し、八住利雄が脚色した。

伝吉は戦争の混乱に妻と娘と離ればなれになってしまい、鳩の街にある〈藤村〉の主人となった。そこには様々な境遇を抱えた女たちが働いていた。自分に夢中な寺田から逃れるため、栄子は伝吉を誘って駆け落ちする。伝吉の妻の千代子は由造という男に助けられ、一緒におでん屋を営んでいた。ある日、伝吉と栄子、由造と千代子が偶然にも出会ってしまう。生き別れた妻が娘を育てていることを知るが、伝吉は今の自分の立場をわきまえ、このまま身を引くことを決意した。酒に酔った伝吉は、誤って川に転落してしまう。

【クレジット】

監督 久松静児
製作 滝村和男
三輪礼二
企画 佐藤一郎
構成 久保田万太郎
原作 永井荷風
脚色 八住利雄
撮影 高橋通夫
玉井正夫
美術監督 伊藤憲朔
美術 小島基司
詞 石本美由起
音楽 團伊玖磨
曲 上原げんと
唄 コロンビア・ローズ
助監督 板谷紀之
出演 久慈あさみ 民江
高峰秀子 街子
淡路恵子 Keiko Awaji 栄子
田中絹代 おしげ
森繁久彌 吉田伝吉
岡田茉莉子 鈴代
水戸光子 千代子

太刀川洋一
桂木洋子
織田政雄
富田仲次郎
浦辺糸子
左ト全
藤原釜足
月野道代
加藤春哉
春日俊二
中村是好
深見泰三
植村謙二郎
勝又恵子
二木てるみ

村井
種子
佐藤由造
田部和市
まさ
花売の爺さん
老人
ゴンドラの女将
寺田
松田
客の男
組合長
武田
トヨ子
照子